

国語科 学習指導案

茨木市立三島小学校

1. 日 時 令和6年度 9月13日(金) 第5時限(13:50~14:35)

2. 場 所 第6学年1組・2組・3組 各教室

3. 学 年・組 第6学年1組(29名)・2組(30名)・3組(30名)

4. 単 元 名 物語を読んで、人物の生き方について考えよう(読むこと)

5. 教 材 名 「海のいのち」(東京書籍)

6. 単元目標

(1) 文章を朗読することができる。

〔知識及び技能〕(1)ク

(2) 文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)オ

(3) 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)カ

(4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

7. 言語活動 立松和平氏が考える「いのち」について考えを書こう!

8. 教 材 観

本教材は、中心人物である太一が、父や与吉じいさといった海に生きる人物との関わりを通して成長していく物語である。それぞれの人物像を捉えるとともに、太一と人物とのそれぞれのかかわりから山場での太一の変化について深く考えていきたい。父と与吉じいさは漁師としての生き方を示した人物だが、その共通点、相違点を対比させることで太一に与えた影響を考えることができる。また「海のいのち」という題名や、物語の山場でのクエの描写、太一の成長を暗示する母の様子など、示唆に富む細やかな表現にも着目することで、人間の成長や生き方などについて考えることに適した作品である。

9. 児 童 観

4月教材「さなぎたちの教室」では、同じ年代の登場人物と、自分の姿を重ね、描写をもとに心情を音読で表現した。その後「風切るつばさ」では、描写をもとに人物どうしの関係をとらえながら、心情の変化を具体的に想像する活動を設定した。毎単元、単元計画を立て、つけたい力を明確に、なんのためにこの学習にとりくむのか、何の力をつけることをめざすのか、子どもたちとともに意識して学習をおこなってきている。「海のいのち」は「だれかの生き方を受けつぐ」のではなく、さまざまな人の生き方にふれ、葛藤を乗り越え、自分の生き方を選択した太一の一生の物語であることをおさえたい。また、いままで作品に出会うたびに作者の存在を常に意識していた。作者はこの物語を通して何を伝えたいのだろう、と主題を考える機会を設けていた。この作品を通して「立松和平氏」が考える「いのち」について子どもたちなりにメッセージを受け取り、自分の考えを構築できる姿も期待したい。

10. 指導観

本単元では「文章を読んで立松和平氏が考える「いのち」についてまとめる活動を行う。その際、作品から読み取った「いのち」の感想文で終始するのではなく、自分が考える「いのち」についてもこの作品から受け取った「メッセージ」として書いていく。

第1・2時は「出会いの感想文」として、作品と出会った率直な感想を以下のようにまとめる。

「出会いの感想文」

- ①この作品をズバリ〇〇物語と表現してみよう
- ②作品を読んでグッときたところ（具体的な箇所）
- ③もっとみんなで交流したいこと（私の問いとつなげていく）
- ④この作品から受け取ったメッセージ（主題）

ここから子どもたちがこの作品をどのように読んだのかを知ることができる。特に「〇〇物語」と表現することは、子どもたちにとっても書き表しやすく、お互い「なぜその表現にしたのか」短冊に書いて貼ったものをグルーピングしながら全体交流も行う。また、読後の感想としてクライマックスでの太一と瀬の主との場面について「なぜ・・・なんだろう」という問いがたくさん生まれることが予想される。構造と内容の把握、精査・解釈することを通して、より確かな自分自身の考えがもてるようにしたい。

第3時は、前時をふまえて「私の問い」を練り直す時間とした。「なぜ太一は・・・」という書き出しの問いの場合、「太一の行動については精査・解釈の時間にみんなで読み深めよう」ということとする。「考えるということは、なんらかの問いを解決しようとしている」ことだということをクラス全体で共通理解し、「私の問い」に対して単元を通して解決していきたい。

※予想される子どもたちからの問い(一例)

「なぜ太一はクエを打たなかったのか」



つけたい力に照らし合わせて、人物にフォーカスする

→「クエを打たなかった太一にはどのような心情の変化があったのか」

第4時ではこの作品の「設定」を確認する。「時・場所・人物」を確認することで、物語全体が見えてくる。時をたずねた場合、多くの子どもが「幼い太一(5、6歳)から結婚して子どもを育てるくらいまでの(40歳)35年間のお話」と読むことが予想される。しかし、叙述にもどり本当にそれだけの期間なのかを確かめたい。また場所を「海」という子どもに対しては「どんな海なのか」をもう一度確認したい。人物に関しては「瀬の主」をおとうの生まれかわりと読んだ場合、対人物だという意見もでてくる。しかし、瀬の主の心情が現れる情景描写や叙述をたずねることで読みの確認をしていきたい。

第5・6時は精査・解釈の時間とする。子どもたちから出た問いで一番多く出るであろう、物語の山場を丁寧に読み取りつつ、太一に影響をあたえた3人の人物との関係、瀬の主と対峙した場面から、太一がどのように成長していったのかを問いたい。

第7時は読書座談会①を行い、この時間を本時とする。それまでの読みをいかして、クラス全員で同じ問いを個人、班、クラス全体で交流、などを通して「問い」を解決する。

第8・時は「私の問い」を解決する。第3時で立てた「私の問い」(個人の問い)を前時同様、個人、班、クラス全体で交流をしながら解決していく。

第9・10時は今までの読みをまとめていく。立松和平氏が考える「いのち」とは何か。太一の生き方や、太一に影響をあたえたすべてのものから作者は何を伝えたかったのか、モデル文を参考に自分の考えを整理していく時間とする。

11. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文章を朗読している。 (1)ケ	①文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。 C(オ) ②文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。 C(カ)	・進んで物語が自分に語りかけてきたことを考え、学習の見通しをもって人物の生き方について考えようとしている。

12. 単元の指導と評価計画(全11時間 本時 8/11)

時	学習内容	学習評価 (◎記録に残す評価 ○指導に生かす評価)			
		知技	思判表	主体	評価規準・評価方法等
1 2	●「作品」に出会う【構造と内容の把握】 ・あらすじ・登場人物・物語の世界観 ・ふしぎやなぜを交流 ●単元の見通しをもつ ・学習課題の確認(単元計画) ・活動モデル文の提示 「風切るつばさ【友情とはなにか】」 ・言葉の学習(押さえておくべき言葉)			○	・行動観察 ・ノート
3	●「私の問い」を立てる 【構造と内容の把握】 ・「立松和平の考えるいのち、わたしの考えるいのち」を話し合うために、どんなテーマが必要か。(その問いを解決したら「立松和平の考えるいのちにつながりそうか」) ・「私の問い」を立てる		○I	○	・行動観察 ・ノート
4 5 6	●それぞれの場面で登場人物のしたことを読み取る 【精査・解釈】 ・人物像・場の設定・題名 ・人物同士の関係 ・行動の理由	○	○I		行動観察 ・ノート
7 本時	●「私の問い」を解決する(読書座談会①) 【考えの形成】【共有】 ・「太一はなぜ瀬の主にもり打とうと思っていたのか」をクラス全体の問いとし交流する		◎I		・文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができていのかの確認。 【思・判・表①】 (行動観察・ノート)
8	●「私の問い」を解決する(読書座談会②) 【考えの形成】【共有】		◎I		・文章を読んで理解したことに基づいて自分の考

					えをまとめることができて いるのかの確認。 【思・判・表①】 (行動観察・ノート)
9 10	●「まとめの感想文」を書く テーマ:立松和平氏が考える「いのち」とは (海のいのちをベースに) ・自分なりに解決した問いに対する考え ・自分が考える「いのち」についてもふれる 【考えの形成】 ●感想文を交流する ・交流での意見を反映させる 【共有】		◎2	◎	・文章を読んでまとめた 意見や感想を共有し、自 分の考えを広げている。 【思・判・表②】 (行動観察・ノート) ・進んで物語が自分に語 りかけてきたことを考え、 学習の見通しをもって人 物の生き方について考え ようとしているかの確認。 【主】 (行動観察・ノート)
11	●単元テスト① ・朗読は自分が選んだ場面をタブレットに録 画して提出する	◎			・これまでに学習してきた ことを想起しながら自分 が選んだ場面を朗読でき ているのかの確認。 【知・技】(ICT)
12	●単元テスト ・書いた感想文は冊子としてクラスで交流 ・参観、懇談時に保護者に見てもらう				

学習課題（単元でつきたい力）

- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる力をつけま
す。
- ・そのために人物像や行動の理由、題名の意味をとらえます。
- ・そして作者「立松和平さんが考えるいのち」について「まとめの感想文」で自分の考え
を書きあらわそう

13. 本時の展開

(1) 本時の目標

・文章を読んで太一の生き方や、登場人物との関係など、理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができる。

(2) 本時の評価規準

・文章を読んで太一の生き方や、登場人物との関係など、理解したことに基づいて自分の考えをまとめている。【思・判・表①】

(3) 本時の判断基準

おおむね満足できる状況(B)	努力を要する状況(C)への支援
・問いに対して、根拠となる箇所を粘り強く読み取り、自分の考えをまとめようとしている。 (思・判・表①)	・考えを生みだすことが難しい児童に対しては 今までのノートの記述から「この問いに対する キーワードはないか」をさがす。 ・友だちの意見の中で「なるほど」と共感できた ものを自分の意見の参考とすることを促す。

(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
5	① 前時までの学習をふりかえる。	・各自が国語の記録をもとにふりかえり、今日の学びを確認する。	
	瀬の主と対峙したときの太一の心情を読み取ろう		
20	②「立松和平さんが考えるいのち」のまとめの感想文作成のために話し合っていくことを確認する。	・班のスタイル(3～4人)で話し合う。	◎思考・判断・表現① (行動観察・国語の記録)
	③クラス全体で「太一はなぜ瀬の主」にもりを打とうと思っていたのだろうか」の問いに対して班で交流する。	・全体で交流することで、自分の考えをさらに固める。	
10	④各班からどのような話し合いになったのか全体で交流する。	・今日、話し合った内容、次回はどのように学ぶのか記録しておく。	
10	② 国語の記録を書く ・この問いに対して自分の意見 ・友だちの考え		

物語を読んで、人物の生き方について考えよう 「海のいのち」

【つきたい力】

・文章を読んで、理解したことに基づいて自分の考えをまとめることができる力をつけます。

【そのために】

・登場人物の人物像や行動の理由、題名の意味をとらえます。

【言語活動（げんごかつどう）】

・作者「立松和平さん」が考える「いのち」についてとめの感想文で自分の意見を書こう

② ①	／	○お話と出会う ・読む ・学習の計画 ・出会いの感想文（○○物語）
③	／	○私の問いを立てる ・出会いの感想文から交流
⑥ ⑤ ④	／	○登場人物について それぞれの生き方 ○それぞれの場面でのようす 山場
⑧ ⑦		○読書座談会① 全体で同じ問いを解決 オクリンク ○読みを深める この物語の主題
⑨		○読書座談会② 私の問いを解決する オクリンク
⑪ ⑩	／	○まとめの感想文 ・読書座談会①②の意見をもとに、「立松和平さんの考えるいのち」について自分の考えも含めて感想文にまとめる ・Wordにまとめる（提示は手書きかWord）